

台灣總督府編

台灣日誌

台灣總督府編

# 台灣日誌

大正八年—昭和十九年  
一九一九年—一九四四年

南天書局發行

一九九四年九月台北一版發行

定價新台幣一〇〇〇元正

## 台灣日誌

編者 台灣總督府

發行人 魏德文

出版者 南天書局有限公司

登記證字號：局版台業字一四三三六號

發行所 南天書局有限公司

中華民國·台北市羅斯福路3段283巷14弄14號

電話(TEL)：(〇二)二三三二〇一九〇

電傳(FAX)：(〇二)二三三二三八三四

郵政劃撥：〇一〇八〇五三三八號

印刷者 國順印刷有限公司

板橋市中正路216巷2弄13號

電話(TEL)：(〇二)九六七七二二六

ISBN 957-638-222-x

# 大正八年

## 五月

### ▲十五日(木)

□明石總督の招待 明石總督は蘆澤電力株式會社創立委員たるべき官民五十餘名を帝國ホテルに招待し會社設立の趣意を述べて官中民の由來に及び、尙ほ株割當の方針としては蘆澤純治に關する政策的意味を加へて蘆澤の土著人並に蘆澤に住する内地人に成るべく廣く行き互らしめたる希望なりとの趣旨の挨拶ありし旨十四日東京電あり

□陸軍團隊長會議 本島陸軍各團隊長會議を臺北舊院街なる陸軍備行社に開く各部隊長高級官及び各衛戍病院長會議も引續き開議せらる

### ▲十六日(金)

□華南銀行の加盟 去る三月十五日營業開始の華南銀行は本日より臺北手形交換所に加盟す

### ▲十七日(土)

□小額紙幣移入 復又十萬圓移入す

□素人畫展覽會 臺灣素人畫展覽會を新公園博物館樓上に開く

### ▲十九日(月)

□獨植民地統治決定 赤道以北の獨領諸島は五月七日首相會議に於て日本の委任統治に決定せる旨外務省の由十七日東京電

大正八年

□正貨の増加 大藏省発表五月十五日現在正貨総額は十六億六千三百萬圓に達すさ十八日東京電

□水電事務開始 本日より蘆澤電力株式會社に關する事務を土木局庶務課長室に於て取致ふ

### ▲二十一日(水)

□風山海軍無線電信所 大正六年三月起工二年有餘を経て工事を完成せる同所は本日通信開始式を舉行す

### ▲二十四日(土)

□紳章の改定 府令十八號を以て蘆澤紳章條規を改正す

□蘆澤電力會社設立委員 左の諸氏に委員を委嘱す  
池田藤三、今村繁三、馬場鏡一、堀野次郎、得能佳吉、宮地近思、陳中和、李景燾、林熊燾、林鶴壽、林獻堂、男爵大倉喜八郎、小倉正恒、賀田金三郎、金子真吉、川原義太郎、岡阿牛、顏發年、立花隆吉、高田登吉、高島小金治、田中長兵衛、工學博士國塚麟、法學博士津村秀松、中川小十郎、中村啓次郎、村井吉兵衛、内田信也、野澤源次郎、中田茂藏、郭春映、山成喬六、山下龜三郎、山本徳二郎、柳生一義、男爵安場末喜、安田善三郎、松岡富雄、松方巖、松方正雄、松方正徳、馬越恭平、横智牧田環、藤山雷太、藤瀬政次郎、男爵古河虎之助、古賀三千人、小山徳三、小松精彌、幸野榮、安部幸之助、後宮信太郎、赤石定藏、赤司初太郎、荒井泰治、淺野徳一郎、麻生二郎、坂野鐵次郎、坂本素松、佐田家年、楊瀨軍之佐、相非親太郎、佐々木勇之助、相馬中治、許廷光、木村久壽彌太、木村久太郎、木村匡、南新吾、三村三平、志村源太郎、下坂藤太郎、土方久徵、平田利熊、森俊六郎、工學博士須田利信、鈴木梅四郎(イロハ順)

### ▲二十七日(火)

□明石總督歸府 上京中の明石總督は信濃丸にて本日歸府せらる

□海軍艦艇紀念祝賀會 午後六時三十分觀遊ホテルに開く

□爪哇の火山爆發 五月二十日東部爪哇ケルト火山爆發し死者二萬六千名との東電あり

### ▲二十九日(金)

□明石總督の東部巡視 明石總督は捕地方部長以下隨員と共に花蓮港、臺東、阿緬廳管内巡視の爲め行程九日の積定を以て本日臺北を發せらる

### ▲三十日(土)

□労働局新設の内定 内務省にては巴里講和會議に於て國際労働の原則を可決したるに因り労働局を新設するに内定せる旨二十八日東京電

□電力事務章程 蘆澤電力會社設立委員事務章程全文發表二十九日東京電

### ▲三十一日(土)

□法制統一 大政官布達以來種々難多なる現行法令を統一整理する爲め政府は法制整理に關する官制調査の歩を進めつゝある旨二十九日東京電

□郵船新航路 日本郵船にては横濱を基點として南支及印度方面に至る定期航路を開始するに内定し六月一日より二週一回航路の由三十日東京電

□蘆澤地租規則改正 田畑養魚池の租率を改正し大正八年度分より適用する旨本日公布此改正によりて百三十六萬圓の増收あるべしと

□練習艦 八雲基隆に入港す

六月

▲二日(月)

○水産協議會 殖産局主催の同會は本日より總督府會議室に開かる

▲六日(金)

○戰利品航艇來る 我が日進艦は戰利品獨逸航艇七隻を率ひて馬港に寄港す

▲八日(日)

○上海の暴動 排日的暴徒起りて内外工場を潰す

▲九日(月)

○電力株主募集 臺灣電力會社株主募集を廣告す  
○地方官會議 本日より開會

▲十四日(土)

○水野道氏二十回法要 臺灣初代の民政長官水野氏第二十回法要を圓山淨土宗布教所にて行ふ

○平定紀念會 臺灣占領當時の渡臺者より成る平定紀念會第四十四回例會を臺北新公園ライオンに開催す

▲十七日(火)

○始政紀念祭 本日前八時臺灣神社に於て始政紀念祭を行ふ  
○石橋督、下村民政長官以下官民百五十餘名参拜す

○始政紀念式と祝賀會 午前九時三十分總督府新廳會議室に於て第二十四回始政紀念式を行ひ又午前十一時三十分より臺北新公園に於て始政紀念大祝賀會を行ひ官民二千五百名來會、午後六時三十分より總督府新廳會に於て總督府祝賀夜會を舉行す

▲二十日(金)

○警備委員會受賞 同會官制廢止に付下村會長以下四十二名に對する行賞の御沙汰あり

▲二十一日(土)

○包種茶輸入解禁 和蘭政府は昨年九月十五日以來の本島包種茶爪哇輸入禁止を解除す

▲二十三日(月)

○電力株應募數 日月潭電力會社公募六萬株に對して七百六萬七千二百一十一株の應募あり約百十八倍の申込なり

▲二十五日(水)

○獨逸財産管理令 六月二十三日公布の旨二十四日東京電あり

○聯合自動車試運轉 臺灣自動車會社聯合自動車の試運轉を行ふ

▲二十七日(金)

○獨逸無條件調印 獨逸は無條件にて講和條約に調印すべしと傳へられクレマンソー氏は喜色滿面、陸軍幕僚等と握手しつゝ「ア、諸君と余は四十九年來今日の機會を待てり」と感嘆すべからざるが如し云々二十五日巴里發電

○新嘉坡排日鎮靜 新嘉坡は排日漸く鎮靜に歸し二十三日より各商舖は再び閉店せる旨同地發電あり

○議員の南洋視察團來る 政尾博士、井原、白河、上田、赤間、他の各議員末松財務局長、原田書記官の南洋視察團一行臺北に來る

○講和成立祝賀會 獨逸調印の報は未だ來らざるも講和成立は確定の事實となりたる爲め午後八時より臺北全市の大祝賀會は總督府新廳會支關前なる廣場に行は

れ約三萬の官民は明石總督、下村民政長官、米領事キヤソフ氏、櫻井總領事の發聲により、天皇陛下、聯合與國元首、大日本帝國、聯合與國陸海軍、大日本帝國陸海軍の各萬歳を三喝して閉會退散したり

▲二十八日(土)

○表祝賜暇 講和條約調印に付表祝の爲め七月一日諸官員へ休暇を賜ふ旨仰出さる

▲二十九日(日)

○民政部事務分掌改正 訓令第百號を以て總督府官房並民政部事務分掌規程を改正せらる

○對獨講和條約調印 六月二十八日午後三時ヴェルサイユ宮殿に於て對獨講和條約は愈々調印せられたりとの巴里電あり、但し支那側委員は調印せず

七月

▲一日(火)

○講和成立表祝 午前八時臺北練兵場に於て平和紀念觀兵式を行ひ又同十時より總督府に於て講和成立表祝式を行ふ

▲四日(金)

○警察隊編成 訓令第百五號を以て臺灣總督府廳警察隊編成規程を定む

○海底電話 布袋崎、澎湖間の海底電信線を應用する海底電話線成り七月十日より澎湖本島間長距離電話の

連絡を取扱ふに決す之を本島海底電話の嚆矢とす  
□明石總督重忠 明石總督はインフルエンザ肺炎にて重篤に陥る

▲五日(土)

□國際汽船創立 國際汽船會社創立總會を開き川崎方大野氏社長に互選の旨四日東京電  
□總督病氣御見舞 明石總督病氣御見舞として 天皇皇后兩陛下より葡萄酒一打御下賜の旨著電

▲九日(水)

□法制會議會官制公布 法律制度を調査審議する爲め臨時法制會議會官制を公布し其附則を以て法律取調委員會規則を廢止せらる、旨東京電  
□財政經濟調查會官制公布 財政及經濟に關する重要な事項調査の爲め臨時財政經濟調查會官制を公布し其の附則を以て臨時國民經濟調查會官制を廢止せらる、旨東京電

□ヒ元帥の覺悟 ヒンアンブル元帥はフォウシニ元神に書を控りて前獨帝に代り自ら聯合國の處分を受けん事を出したる旨九日巴里電  
□南洋廳設置 南洋占領諸島に南洋廳を設置するに決したる旨東京電

▲十日(木)

□臺灣郵便貯金五百五十萬圓 七月十日現在本島郵便貯金預入人員三十六萬五千二百七十七名其金額五百五十一萬四千百十六圓六九九に達し未曾有の増加を示せり

▲十二日(土)

□總督病狀輕快 一時危篤を傳へられし明石總督の病氣も漸く輕快に向ふ

▲十六日(水)

□板垣伯薨去 我が憲政の主唱者たる板垣退助伯は肺炎の爲午前三時四十分八十三の高齡を以て薨去せられたる旨東京電

▲十七日(木)

□前獨帝引渡の承諾 和蘭政府は聯合國に對し前獨帝の引渡を承諾したり其結果獨帝は海牙にて聯合國官憲の手に引渡さるべしと十五日巴里電

▲十八日(水)

□臺灣製糖株式會社 設立せらる社長は津田毅一氏なり  
□世界の精神的指導者 ヴァルソン氏は米國上院に於て演説して「這般の競争は世界の精神的指導者たる米國の地位を決したり」と絶叫云々十六日桑港發電

□正貨現在高 大藏省發表七月十五日正貨現在高十六億八千七百萬圓、先月に比し百萬圓の増加と十七日東京發電

▲二十日(日)

□聯合自動車運轉開始 臺灣自動車會社本日より臺北市内に於ける聯合自動車の運轉を開始す  
□トロール會社設立 臺灣トロール業株式會社設立せらる社長は木村泰治氏なり

▲二十二日(水)

□總督病狀 明石總督の病狀漸く回復期に入る

▲二十三日(木)

□總督病狀 明石總督の病狀漸く回復期に入る

□教育會總會 臺灣教育會第十五回總會を城南小學校に開く  
□滯貨十五萬噸 本島鐵道沿線滯貨十四萬八千四百十五噸を算せらる

▲二十四日(金)

□兒玉將軍法要 圓山隆濟寺に於て關基兒玉將軍の法要を行ふ  
□戰病死者法要 圓山公園忠魂堂に於て領臺戰病死者七千有餘の英靈に對し大祭法要を行ふ

□滯貨問題陳情 本島鐵道滯貨に就き米穀商等其筋に陳情して救済を求む  
□一期米糶 總督府調査本年一期米二百六十七萬石餘收購の要題、最近五箇年平均本期實收高に比して三十五萬石餘の増収なりと

▲二十八日(月)

□臺灣煉瓦會社 臺灣煉瓦株式會社第六回定期株主總會を開き一割の配當を爲す  
□米價低落 臺灣北部米二十餘方低落し百斤十二圓六十錢となる

▲二十九日(火)

□廣州に虎疫流行 廣州虎列刺病傳染を極め昨今一日の死亡者三百餘名に達し去月中旬初發以來死亡者四千五百人以上に達す  
□大稻埕の虎病 臺北大稻埕に虎列刺患者を出だす

□作樂所官制廢止 臺灣總督府作樂所官制廢止の件公布の旨東京電  
□香港米騰動 米價暴騰の爲め香港に米騰動起り事態重大なる旨香港電

□石材會社設立 宜蘭山下の特産たるスレート及大理石工業を目的とする臺灣石材株式會社設立せらる

八月

▲三十一日(木)  
 □臺灣電力創立總會 臺灣電力株式會社創立總會を開き社長に高木友枝氏、副社長に角澤泉氏、理事は大越大藏、南新吾、永田肇之助の三氏夫々任命せられたり  
 □朝鮮自動車發明 飯塚啓太郎氏自動車を發明すを報じらる

▲一日(金)

□臺灣丸、試運轉 基隆鐵工所建造に係る木造帆船臺灣丸(四七〇噸)の試運轉を爲す  
 □電力會社登記公告 臺灣電力株式會社の登記を公告す  
 □東京の新聞休刊 都下新聞印刷職工全部賃金直上を要求して罷業せるより各新聞は申合せて休刊せる旨東京電

▲三日(日)

□海南製粉株式募集 海南製粉株式會社株式申込を募集す

▲四日(月)

□臺灣鐵道株式募集 臺灣鐵道株式會社臺北株式現物團に委嘱して株式申込を募集す  
 □東京の新聞發刊 印刷職工罷業の爲め八月一日より休刊せる東京各新聞經營者と職工との間に協定漸く成り夕刊は本日より其他は明五日の新聞より發刊する事に決定せり

▲五日(火)

□佐久間大將法要 前臺灣總督故佐久間大將の第五周年法要を關山忠義堂内淨土宗布教所に於て執行す  
 □郵貯五百六十萬圓 七月末日臺灣郵貯金預入人員三十六萬六千四百五十五人、金額五百六十二萬九千二百一十一圓五十七錢、六月末金額に比して十五萬一千七百圓餘を増加せり

▲八日(金)

□高等法院設置 臺灣總督府法院條例を改正して高等法院を設置し覆審及上告の裁判を爲すの制を爲し又た之に伴ふ種々改正ありたり

▲九日(土)

□高等法院長以下任命 高等法院設置に付高等法院長同檢察官長以下夫々任命を見たり  
 □臺東の暴風雨被害 暴風雨臺東を襲ひ臺東街の家屋は過半潰倒し人畜死傷多く殆ど全滅の状あり

▲十二日(火)

□香農會株式募集 臺灣香農株式會社株式申込を募集す  
 ▲十五日(金)  
 □長谷川前朝辭へ僱留 在任中精勵甚く其任務を盡したるを以て其功勞を嘉賞せらる

▲十八日(月)

□對支借款團討論 外交調査會に於て對支借款加入に關し滿蒙を除外せざれば加入し得ざる旨英米佛に回答するに決定せりは十六日東京電

▲上旬移出米

本年上半期内地移出の臺灣米は六十七萬五千七百餘にして昨年同期に比して三十五萬四千六百七十六袋の増加なり

▲二十一日(木)

□臺灣軍司令部條例 十九日發布せられたる旨東京電  
 □爪哇の日貨排斥 爪哇に於ける日貨排斥同盟は愈々八月十五日を期して開始すべきを聲明したりは十九日東京電  
 □朝鮮統治懇助 朝鮮總督府制改革に付統治方針に關して大詔煥發さる

▲公學校會改正

公學校に簡易實業學校を加ふる條件令八號を以て公布さる

▲麻病防護講習規程

本日訓令を以て發布せらる

▲總督府官制改正

二十日官報、臺灣總督府官制改正せられ總督は親任とし總督武官なるときは軍司令官を兼ねしむるを得、又た民政長官を總督府官と改稱し其他之に伴ふ改正あり朝鮮總督府官制も同時に改正せらる

▲明石臺灣軍司令官

明石總督は總督府官制改正の結果臺灣軍司令官に任ぜらる(二十日東京電)

▲二十三日(土)

□臺灣鐵道株式會社 株式申込者を募集す  
 □忠死追用會 臺灣佛教會の主催により世界大戰忠死者追用會を臺北四水願寺に舉行す

▲二十五日(月)

□暴風雨來 暴風雨襲來し全島其の害を被る北部地方最も甚し

▲二十六日(火)

□臺灣丸沈没 汽船臺灣丸大坂商船會社基隆より福州へ航行中颶風の襲ふ所となり澎湖沖に於て沈没し船員以下乗組員三十二名船客六名行方不明なる

▲二十八日(木)

□四國寺侯へ僱留 講和會議並列の任を了りて歸朝し

たる西園寺侯の勢を裏返せられ権限を下し給はる  
□東東福災者御救恤 本月九日東東福管内暴風雨の爲め被害甚しきを以て、東東福災者御救恤として、天皇皇后陛下より金千二百圓下賜の旨宮内大臣より達せらる

▲三十日(土)  
□敵國財産管理令施行法、獨逸國等に屬する財産の管理、管理の解除換價其他必要な處分は廳長之を爲すの件總督府令第九十九號を以て其施行手續を定めらる

## 九月

▲一日(月)  
□明石總督の床拂ひ、明石總督は七月初旬以來の重病全く愈えたるを以て主なる官民を官邸に招き床拂の祝杯を舉げらる

□虎疫千五百八名、初發以來の虎疫千五百八名内死亡者千十五名、臺北は死亡八百六十五名の多きに達す  
□臺灣銀行増資、臺灣銀行第四十四回定時總會を東京支店に開き席上従来の資本三千萬に更に三千萬を増資するに決す

▲三日(火)  
□日英の默契、英國は西薩波斯に對する政策を日本が承認する代償として日本の爲め對支借款團の成立に反對し且つ日本が黄河以北に於て借款契約を爲すに就き何等放障を稱へざる事を契約せりとの風説傳えらるる  
▲五日(金)  
八月三十一日東京電あり

□齊藤朝鮮總督訓示、新任齊藤朝鮮總督は本日午前十時部下高等一同を召集し新任の挨拶と共に朝鮮統治の大方針に就き一場の訓示を爲す  
□臺中製糖株主會社成立、臺中製糖會社創立總會を開き定款承認重役の選任其他を了る社長は小松福彌氏なり

▲十日(水)  
□虎疫豫防の爲乗船客制限、郵船二船會社は公衆衛生の爲め九月十七日以後出帆の定期乗客に對しコレラ豫防液注射の証明あるものに限り切符發賣を爲すべき事を廣告す

▲十二日(金)  
□臺灣新株公募、臺灣銀行三千萬増資に付新株三十萬の内一萬株を募集す但額面超過額五十圓以下なり

▲十三日(土)  
□彰銀新株募集、彰化銀行増資に付九萬八千株の内四萬六千株を公募す一株五十圓にして額面超過額十五圓以上なり  
乃木將軍墓前祭、午前八時より臺北三板橋御靈堂に於て乃木大將同夫人の墓前祭を行ひ總督代理其他隨官の參拜あり木村匠氏乃木會を代表して祭文を捧讀す

▲十七日(水)  
□暴風雨被害に付制下賜金、去月二十五日日本島暴風雨の爲め被害甚しきを以て、天皇陛下より金三萬圓制下賜に付罹災者救恤の補助に充つべき旨宮内大臣より達せらる

▲二十一日(日)  
□臺北輕鐵炭礦株式會社、臨時總會を開き會社解散に決す

□臺北鐵道株式會社、創立總會を開く

▲二十二日(月)

□臺灣府議會、長官々邸に開かれ長官亦た病を押して列席せらる

□臺灣銀行新株公募、臺灣銀行增加資本三千萬圓に對する新株三十萬株の内一萬株を公募す申込價額は額面超過額五十圓以上なり

□新竹製糖株式會社、創立に付十五萬株の内一萬五千株を公募す申込價額は額面超過額十五圓以上なり

▲二十三日(火)

□高砂製糖興業株式會社、創立總會を鐵道ホテルに開く社長に平山午介氏舉げらる

▲二十六日(金)

## 十月

▲二日(木)

□英國鐵道大罷業、英國に於ける全鐵道は従業員同盟して九月二十六日夜より運轉を停止せり參加罷業人員五十萬人に上ると三十日倫敦電

□郵傳局長會、全島一二等郵便局長會議を臺北陸軍省行社に開

▲四日(土)

□排日取締の要求、我當局は支那に於ける排日の原因を調査し其取締方を煽動者の所屬國政府に要求せりとの稅あり



□臺灣製紙株式會社 設立の登記を爲す資本總額百五十萬圓なり

▲六日(月)

□臺灣へ低利資金 臺灣暴風雨被災救助の爲め大蔵省は産業獎勵基金二百萬圓を低利融通するに決せり貸付は府府の指令に基き臺灣銀行之に當る旨四日東京電

▲八日(水)

□匈國帝政可決 匈牙利憲法會議は總務一致帝政を可決し、セフ大公は皇帝に推薦せられたる旨六月柏林電  
□臺灣軌道株式會社 設立の登記を爲す、資本總額三百萬圓交通運輸及之に附帯する貸付金を目的とす  
□臺灣衣克漁業株式會社(基隆) 設立登記を爲す資本の總額四十萬圓、漁業冷産業、水産物の製造販賣等を目的とす

□總督官邸の茶話會 明石總督は十三日出發別府に歸發の後上京せらるゝ爲め病氣全快祝を兼ねて茶話會を官邸に催され官民三百餘名來會總督の健康を祝して盛會を極む因に總督には十二月中旬歸臺の由

▲九日(木)

□物價調節施設 政府は物價問題に付通商部少社會及經濟政策的施設を以て之が調節を圖るに決せる旨東京電

▲十一日(土)

□東京洋木株式會社 株式を募集す  
□労働代表選別會 労働會議出席の鎌田、武藤、柳本三代黨の爲め原首相は官邸に於て選別の午餐會を開き首相の挨拶、鎌田代表の答覆ありたる旨九日東京電

▲二十日(月)

□臺灣法令會議 臺灣入事令、南事令は十四日より法制局に於て決定的審議を経べしと九日東京電

▲十三日(月)  
□官吏増補決定 來年度より高等官判任官の増補恩給の割増を實行するに決せりと十一日東京電

▲十四日(火)

□明石總督 本日午後二時臺北發備後丸にて内地へ轉地療養の途に上らる  
△臺灣銀行利子引上 十月十日より島内貸出利子を二厘方引上げ最高二厘五厘に改正したり

▲十六日(木)

□臺灣憲兵隊行政司法警察服務規程 訓令第百八十五號を以て本日公布せらる  
□明石總督 十三日備後丸にて内地へ赴かれたる明石總督は門司にて船中再び重患に罹られたるも程なく快癒歸國へ赴かれたるの報あり

▲十七日(金)

□宜蘭神社 遷座式を行ふ  
▲十九日(日)  
□明石總督再び危篤 十七日歸國後後経過良好なりし明石總督は十九日朝より再び危篤状態に陥るこの電報あり

▲二十日(月)

□臺灣文社大會 林子蓮氏發起となり十九日臺灣文社大會を臺中座に開く全島各地より會する者八十餘名と報せらる  
▲二十一日(火)  
□肥孔典禮 本日孔子生誕の日に當るを以て大稻埕女子公學校に於て肥孔典禮を行ふ  
□三等局長會議 全島三等郵便局長會議を陸軍儲行社に開く

▲二十二日(水)

□中央山脈の降雪 今朝シルビヤ山に白雪燈々たるを見る  
▲二十三日(木)  
□森林調査終了 警林局の太平山方面の森林調査を終へ調査隊を解散す  
▲二十四日(金)  
□新新聞値上 物價騰貴に因る経費増加の爲め露日、臺灣、露南の三新聞協議の結果十一月一日より一箇月一圓二十錢に値上げの廣告を爲す  
▲二十五日(土)  
□明石總督授爵 明石總督危篤の報天聽に達し特旨を以て正三位に叙せられ勳功に依り特に男爵を授けらる  
▲二十六日(日)  
□明石總督薨去 明石總督は福岡に滞在療養中の處二十四日來危篤に陥り薨石其效なく二十六日午前六時三十分同市大名町松木別荘に於て終に薨去せらる  
□總督府高塔に無線電信 基隆基隆角無線電信支局は其所屬一切の業務を二十八日より當分の間總督府構内に於て取扱ふ旨告示せらるる總督府高塔に無線機を裝置したるに因る

□ 民國新内閣成る新臺灣總督として民國内閣成る

▲二十七日(月)  
□ 明石總督葬儀公告 明石總督喪去に付十一月三日葬式により臺北新公園に執行する旨葬儀委員長下村長官の名を以て廣告し尙ほ墓地は三板橋の共同墓地と定め葬儀執行の爲め委員長以下各郡長左の如く選定せらる

- 下村 宏 高木 友枝
- 高田元治郎 曾田孝一郎
- 櫻井敏太郎 楠 正秋
- 川崎 卓吉 相賀 照郷
- 新元鹿之助 富島 元治

□ 國際聯盟條約可決 本日樞密院會議に於て講和條約全文批准奏請の件を可決し原首相は閣議を経て御裁可を奏請せり

□ 臺灣神社通拜式 本日新公園に於て通拜式を行ふ

▲二十八日(火)

□ 臺灣神社大祭 本日臺灣神社に大祭を行ふ

□ 海軍大觀艦式 戰後第一回の海軍大觀艦式は豫定の如く本日横濱沖に於て舉行せられ天皇陛下には朝來降雨なりしにも拘らず御臨幸遊ばされ親しく御親臨あらせられたり

▲二十九日(水)

□ 新臺灣總督 男爵田健治郎閣下新たに臺灣總督に任ぜらる

▲三十日(木)

□ 講和條約御批准 對講和條約は今朝十一時御批准を告げり公布は官報號外を以てすべしと

▲三十一日(金)

□ 天皇節祝賀 總督府に於ては午前九時より二階會議室にて天皇節拜賀式を舉行し各官衙も夫々舉行したり又た臺北官民は午前十一時より鐵道ホテルに於て合同祝賀會を催せり

# 十一月

▲一日(土)

□ 臺灣軍司令官 東京衛戍總督陸軍大將柴五郎閣下新たに臺灣軍司令官に任ぜらる

□ 明石總督の遺骸着臺 明石總督の遺骸は今朝六時亞米利加丸にて基隆港臨時汽車にて臺北に向ひ十時十分東門街なる總督官邸に入る

▲三日(月)

□ 明石總督の葬儀 本日午前八時三十分明石總督の靈柩は聯隊旗を持つ儀仗兵を先頭に賑々として官邸を出で新公園の葬場に向ふ、葬列の長さ約十六丁、臺北府城を半週して葬場に達し莊嚴なる葬儀を行ふ此間新公園の一隅にて十九發の甲砲を發射す、葬儀祭を了りて三板橋の臺城に遷柩の儀を行ふ當日沿道送送者十萬と報ぜらる

□ 寺内伯喪去 三日正午元帥伯爵寺内正毅閣下喪去せらる特旨を以て従一位大勳位に叙し菊花大綬章を授けらる

▲四日(火)

□ 臺灣森林令公布 律令第十號臺灣森林令公布せらる

▲八日(土)

□ 臺灣醫學大會 第十四回臺灣醫學大會を醫學專門學校大講堂に開く

▲十日(月)

□ 明石總督未亡人歸臺 明石總督葬儀の爲め來臺中の未亡人信子氏は親族と共に香港丸にて歸臺せらる

□ 苗栗出礦坑の石油噴出 寶田石油の苗栗出礦坑礦場第二十五號油井より石油噴出す

▲十一日(火)

□ 田新總督著臺 新臺灣總督男爵田健治郎閣下は備後丸にて今朝六時三十分基隆港同九時十五分臺北縣に着せられ多數官民の出迎を受け第一公式行列にて官邸に入らる沿道歡迎者頗る多し

□ 總督歡迎會 本日午後六時より鐵道ホテルに田總督の歡迎會を開く、來會者官民六百餘名非常の盛會を極む、田總督の挨拶中左記の事項に注意を惹きたり

田總督は十餘年前、臺灣縱貫鐵道開通式の際一度來臺したるが其前明治二十八年臺灣事務局の一員として關係し爾來歴代の總督長官は皆な先輩又は親友なりし爲め是等の日より臺灣の事情を諳くを得、又た貴族院議員としても豫算討論の上より臺灣の事情を知り、南洋協會々頭としても臺灣を知るの便を得たり云々

▲十二日(水)

□ 小學校聯合運動會 臺北城東、西、南、北及觀安の五校聯合運動會を新公園に舉行す(公學校は翌十三日舉行)田總督も午後二時より臨場せらる

□ 田總督訓示 田總督は本日總督府會議室に於て府内

大正八年

高等官其他に對し憲法統制に關する方針に就き一編の訓示を爲す

▲十四日(木)

田總督巡視 田總督は本日午前十分臺北驛發列車にて中南部地方巡視の途に上らる

▲十六日(日)

福州排日騷擾 支那學生の排貨運動より本邦人との間に一大衝突を生じ死傷を出す

▲十七日(月)

臺北辯護士會 臨時總會を法院内辯護士控所に開き山口前會長の後任として小宮辯護士會長に當選す

後藤男爵歡迎會 東洋協會主催にて會長男爵後藤新平氏歸朝歡迎會を十六日鐵道協會に開きたる旨東電

▲十九日(水)

臨時手當支給規則改正 總督府及所屬官署官吏及同待遇者並に、囑託、雇傭員の臨時手當を改正し從來より増給することとなる

▲二十日(木)

田總督歸府 去十四日より中部視察中の田總督は豫定の視察を終りて本日午後六時四十五分臺北驛發歸府せられたり

▲二十二日(土)

地方長官召集 田總督就任後第一次の全島廳長會議を總督府會議室に開き總督は施政方針に付訓示を爲したり

▲二十四日(月)

臺東街大火 臺東南町本島人街より出火し延焼三十九日に及ぶ

▲二十五日(火)

平和條約發表 同盟及聯合國と獨逸との平和條約全文十五篇四百四十條は本日午後一時外務省より發表せり十五篇は左の如し

- 一、國際聯盟規約。
- 二、獨逸國の境界。
- 三、歐洲政治條項。
- 四、獨逸國外に於ける獨の權利々益。
- 五、陸軍及航空條項。
- 六、俘虜及墳墓。
- 七、制虜。
- 八、賠償。
- 九、財政條項。
- 十、經濟條項。
- 十一、航空。
- 十二、港水踏及鐵道。
- 十三、勞働。
- 十四、保護。
- 十五、雜則。

本島郵便貯金 十一月二十五日現在調、預入人員三十八萬七百二十八人、貯金高金五百六十四萬七千五百

二圓二十七錢九厘にして昨年十一月二十五日現在に比して四萬三千七百七十六人、十九萬四千三百三十八圓の増加なり

▲二十七日(木)

直轄學校長會議 總督府直轄學校長會議を開く、田總督、下村長官臨場して訓示を爲す

▲二十九日(土)

伊澤氏建碑式 臺灣教育會主催者となり故伊澤修氏の功勞を紀念する爲め本日芝山巖に紀念建碑式を舉行す碑文は下村長官撰文なり

田總督の角板山視察 田總督は本日角板山を視察せられ濱風館に於てガオガン藩人六十餘名を引見訓諭せられ同館に一泊、翌三十日豫筵所、蕃產物陳列場、蕃

童教育所等を視察せられ午後五時五十分無事歸北せられたり

明石元長氏歸府 故男爵明石總督の令息元長氏は本日付歸府仰付られたり

十二月

▲一日(月)

公設質舖 臺灣總督府地方廳に於て經營すべき公設質舖に關する件本日律令第十一號を以て公布せらる

臺南の祀孔典禮 本日臺南文廟なる大成殿に於て秋季祀孔典禮を行ふ

▲三日(水)

故明石總督四十日祭 本日三板橋なる故明石總督墓前に於て四十日祭を行ふ

▲五日(金)

船運賃直上 本日郵船、大阪商船兩會社に對し逕信局は船運賃直上を認可す之を三十年命令今航路開始以來第四回日の直上となす

▲八日(月)

警務課長會議 本日より三日間總督府會議室に於て警務課長會議を開く

▲十日(水)

陸軍司令官兼任 臺灣軍司令官陸軍大將柴五郎閣下本日歸後丸にて基隆に着午前十時十五分臺北に着せらる官民出迎者頗る多し此夜鐵道ホテルに臺北官民合同の大歡迎會を開く

▲十一日(木)

陸軍司令官招宴 陸軍司令官は本日午後五時半より重

なる官長及外國人百餘名を偕行社に招待して披露の晩餐會を開く

▲十八日(木)

□馬來語講習修業 南洋協會獲得支部の開催に係る第三回馬來語講習會は本日修業式を行ふ修業生三十三名なり

▲十九日(金)

□榮軍司令官巡視 本日臺北陸軍各官衙を巡視せらる

▲二十二日(月)

□大正九年度豫算 繰出十二億七千五百九十四萬四千二十三圓に編成の旨二十日東京電

▲二十六日(金)

□帝國議會開院式 本日第四十二回帝國議會開院式を舉げ天皇陛下御親臨あらせられ開院式の勅語を賜はる

□道外艦隊 日進利根の二艦今朝基隆に入港す

□田總督上京 田總督は本日午後二時五分臺北發、松本、喜多兩秘書官を隨へ上京の途に就かる

▲二十七日(土)

□總督府御用納め 本日午前十時總督府會議室に於て本年御用納の式を行ひ下村總務長官一場の訓示を爲す

□乃木大將母堂墓前祭 本日午前八時三板橋墓地に於て乃木大將母堂墓前祭を行ふ

▲二十九日(月)

□委任統治問題 最高會議は舊獨逸植民地の委任統治問題を討論し日本は南洋占領地の委任統治に對當てられたる旨二十六日巴厘電

大正八年

# 大正九年

一月

### ▲一日(木)

□總督府新年拜賀式 本日午前九時總督府會議室に於て下村總務長官を初め諸官參集、新年拜賀式を舉行し又鐵道ホテルに於て午前十時より官民名刺交換會を行ふ。

### ▲四日(日)

□總督府御用始 本日午前九時總督府に於て御用始の式を行ひ下村總務長官より一場の訓示ありたり。

### ▲六日(火)

□排貨取締の訓令 支那民國外交部は我國の要求に基き各省地方長官に對して日貨排斥運動の取締方を通電せる旨三日上海電

□政府委員 田總督は二十五日附、下村總務長官、阿部事務官(滬)は二十四日附を以て何れも政府委員俾付られたる旨東京電

### ▲七日(水)

□江潮街埋立地記念除幕式 本日午後二時城西四學校前廣場に於て該式を舉行す

### ▲八日(木)

□陸軍始觀兵式 本日午前十時臺北陸軍練兵場に於て觀兵式を行ひ榮軍司令官閱兵を行ふ

□内地人墾得人数 墾得人は事情により内地人小學

校に共學を爲し得ること又た内地人は事情により墾得人公學校に入ることを得る旨内訓及通達を以て明定せらる

### ▲九日(金)

□外國貿易 大藏省調査、大正八年中外國貿易は輸出二十億九千九百三十五萬一千圓、輸入二十一億七千三百六十八千圓、前年比較、輸出一億三千七百三十八萬四千圓、輸入五億五千五百四十四萬圓の増加の旨八日東京電

□下村總務長官上京 下村總務長官は議會其他重要要務を帯び本日午後二時五分臺北發、石井秘書官を隨へ上京の途に就かる

### ▲十日(土)

□米軍西伯利亞撤退 西伯利亞の米軍は日本軍司令官に何等の交渉なく守備區域を撤退せる旨九日東京電

### ▲十一日(日)

□九年度豫算豫算 總額九千二百一十六萬三千五百圓(前年より二千七百七十五萬五千八百八十三圓増)議會に提出せりとの報あり

### ▲十二日(月)

□植民地豫算 九年度豫算編成朝鮮一億一千六百六十六萬二千四百九圓、臺灣九千二百一十六萬三千五百圓、關東廳千四百二十二萬一千五百八圓、樺太廳九百七十一萬七千三百一圓、合計二億三千五百五十八萬七千四百八圓と十日東京電

### ▲十三日(火)

□平和條約批准調印式 對獨平和條約及附屬議定書、波蘭條約の第一回批准調印式は十日午後四時十五分佛國外務省時計の間に於て舉行されたる旨十二日東京電あり、此日官報號外を以て上記諸條約を公布せられ、同時に平和條約公布に關する詔書を公けにせらる

□造林課新設 專賣局に造林課を新設す

### ▲十五日(木)

□流行感冒 昨年十一月以來の流行感冒罹病者の數は

本月十日調查北廳管内累計八千五百四十四名、死亡六百六名と報せらる、又た十三日現在痘北三市街及附近村落の患者四千六百名、死亡四百名に達し未だ終熄に至らず

### ▲十七日(土)

□田總督就任祝賀會 臺灣俱樂部主催の田總督就任祝賀會は十五日午後六時より精養軒に開かれ主賓田總督陪賓下村長官、松本秘書官を初め出席者八十餘名、總會を極めたりと(十六日東京電)

### ▲十八日(日)

□關印の臺灣行政調査 關領東印度政廳に置かるべき日本人局の用務を以て事情調査の爲め來朝中のパンデシタット氏は歸任の途次臺灣事情調査の目的を以て本島に來着す

### ▲十九日(月)

□田總督の演說田總督の部下新聞通信記者七十餘名の總督歡迎饗會の席上、一場の演說を試み無慮數千言臺灣進歩の軌を説き日本民族の同化力に及び最後に臺灣人の文化進歩に伴ひ差別待遇を撤廢して大和民族に融合同化せしむべきを宣明したる旨(十八日東京電)

□榮軍司令官巡視 臺中運用に於て各陸軍部隊及各陸軍官衛巡視の爲め出發

### ▲二十一日(水)

□前獨帝引渡の要求 最高會議は十六日夜和蘭政府に對し前獨逸皇帝引渡に關する公式要求書を遂致したりと(十九日巴黎電)

□聯盟第一會議 一月十六日午前十時國際第一回理事會を佛國外務省時計の間に開き佛國側のレオン、アルジョア氏選ばれて議長となる、氏は聯盟成立の由來及

其將來任務を詳説し例年一月十六日を以て正に新世界出現の日として永遠に記念するの要あることを述べ尙ほ列國共存の基礎は之によりて築かれざるべからざる所以を力説したり(十六日巴里電)

□佛國大領領選舉 一月十七日午後一時ヴェルサイユ宮殿に於て大領領選舉會開かれテシヤネル氏當選し氏は佛國及佛國民に對し粉骨碎身奉公の誠を致すべきを誓ひたり(十七日巴里電)

▲二十二日(金)

□山東還附通告 日本は講和條約の効力發生に因り山東の舊獨逸の權利を繼承したるを以て支那政府の希望により何時にても舊獨逸の租借地還附に關し協商を開始すべき旨同政府に通告したり(二十日北京電)

▲二十七日(火)

□獨帝引渡拒絶 和蘭は聯合國の獨帝引渡の要求に對して和蘭は講和條約の署名國にあらざれば何人も聯合國に引渡すべき約束をなさず隨つて亡命客保護地としての舊來の權利を支持すとの理由により其要求を拒絶したる旨二十五日巴里電あり

□瑞製同汽車開通 宜剛線瑞芳製同汽車本日より開通す

▲二十九日(木)

□流寇死亡五千七百名 一月二十日現在臺灣全島にて流行感冒患者六萬六千九百三十八人、内死亡者五千六百九十二人と報せらる

二月

□前獨帝引渡再請求 聯合國は和蘭に對し再び前獨帝の引渡を要求したりと四日伯林電

▲八日(日)

□排日取締の抗議 小樽駐支公使は二日外交部に對し支那政府が排日風潮を放任せば日本は已むを得ず自警の處置を講ぜざるを得ざるに至るべき旨警告し北京政府は協議の結果四日學生の演說團に對して嚴重に取締を勵行せりと六日北京電

□新設會社激増 大正八年下半期中本島に設立されたる會社は其數八十七社、資本金一億五十九萬八千五百圓、拂込金三千三百九十八萬圓に達すと報せらる

▲十一日(水)

□上層使用規則公布 基隆上層使用規則は本日府令第九號を以て公布即日施行せらる

▲十四日(土)

□山東問題不受感 國際聯盟は山東問題を受理せざることに決し其旨宣言せる總駐英公使及び駐米公使より外交部へ電報ありたりと十二日上海電

▲十七日(火)

□軍車講演 軍司令部にては軍事思想鼓吹の目的を以て二月十九日より同二十四日迄全島に軍事講演會を行ふに決す

□鐵道特定運賃改正 鐵道部にては時間改正其他に伴ひ運賃改正の必要を認め大貨物特定運賃を改正し四月一日より實施の旨發表せり

▲十八日(水)

□米又は有價證券取引市場は臺灣總督の許可を受くるを要し違反者は二百圓以下の罰金又は一年以下の懲役に處する旨府令十一號を以て發布

□總督府航空班 吉田金次郎外十二名の一行は豫定の練習を終り本日門司發歸臺の途に上る

□獨帝和蘭滞在許可 聯合國は和蘭が前獨帝の同國滞在を許し且他の關領内に移轉する事に對し何等の障礙を與へざるべき旨通牒を發せりと倫敦電

▲二十日(金)

□臺灣電力總會 は本日午後一時より鐵道ホテルに開かれ高木社長事業の状況を説明し利益處分案(年六分強配當)を可決せり

□阿嶺潮州鐵道 の内頓物潮州間は二十二日より開通營業開始に決し之にて該鐵道全通を見るに至れり

▲二十四日(火)

□臨時產業調查會官制 二十二日發表せらる(東京電)

□普通選舉聯合大運動會 芝公園に行はれ會衆數萬に達すと二十二日東京電

▲二十五日(水)

□八幡製鐵所 職工全員罷業を爲し形勢不穩の旨二十四日門司電

▲二十七日(金)

□帝國議會解散 第四十二議會は二十六日衆議院に於て普通選舉法案討論中解散を命ぜらる(二十六日東京電)

三月

▲一日(日)

大正九年

○米上院の聯盟脫退案可決 米國上院は二十一日二十對四十五の大多數を以て米國は國際聯盟より脫退すべしとの共和黨の法律案を可決せり。二月二十七日華盛頓電

○臺北辯護士會と國際辯護士協會 國際辯護士協會東京に開かるゝに付臺北辯護士會は本日午後一時協賛の結果、矢野、白倉、石橋、土屋の四氏上京出席に決したり

○華銀總會 本日東京支店に第四十一回總會を開く

○八日(月) 總選舉留停 五月十日衆議院議員の總選舉を行ふ旨詔書公布せらる(七日東京電)

○十一日(木) 臺灣節同風會 實行方法九箇條を定め實行委員を指定せる旨報せらる

○十三日(土) 大橋頭架橋成る 大稻埕大橋頭に於ける架橋新たに成り近く閉橋式を行ふべしと報せらる橋の長さ二百三十五間(約四町)全島第一の長橋と稱せらる

○十五日(月) 銀塊漸落 倫敦銀塊相場は去十日臺灣銀行入電七十七片八分の三を報ず

○本島協會社激増 臺灣景況に伴ひ本島協會社激増し大正八年末調株式會社二百四十一社(七年末は一四三社)合名會社十六社、合資會社九三社と報せらる

○十六日(火)

○獨逸帝政復活革命 十三日柏林に帝政復活革命勃發せる旨同日巴里電あり

○臺灣商工學校第一回卒業式 東洋協會支部の設立に係り共學制の最初の試みを以て知られたる同校は第一回の卒業式を十五日三板橋の其校舎に舉げたり

○十七日(水) 諸株暴落 十五日朝來株式市場恐慌相場を現出し東株初め諸株一齊に暴落せり(同日東京電)

○二十三日(火) 福州事件交渉 福州日貨抵制に關する暴行事件に關し日支兩國調停解決の望みありと二十二日東京電

○條約批准否決 米國上院に於ける議和條約批准の議決は四十九對三十五にて否決せらる(二十日華盛頓電)

○二十五日(木) 鐵工職同盟罷業 帝都の大鐵工所職工三千餘名大同盟を爲し本日芝浦埋立地に大會を開き工場主側の聯盟に對抗する、ことを申合せ更に明日大會を開くべく東京附近各工場不穩に陥ると二十三日東京電

○家産王御命名 久邇宮多賀王妃殿下男子御分鏡に付本日家産王と御命名ありたりと同上電

○嘉義農産物品評會 二十三日模倣支應に於て舉行せらる

○二十七日(土) 日本國際聯盟協會 國際聯盟の運用に關し阪谷男を筆頭に一流政治家、學者を網羅せる官長合同の國際聯盟協會を設立し三十日築地精養軒に其第一回發起人會を開くべしと二十六日東京電

○薩摩郵貯六百萬圓 二月末現在内地人、預金十四萬

八千八百五十五人金額四百三十四萬四千八百八十三圓、本島人貯金者二十四萬九百二十七人、金額百六十七萬一千五百七十七圓、生藩人千九百五十九人、金額一萬八千四百圓合計三十九萬一千七百五十一人、六百三萬四千五百五十九圓に上る

○二十八日(日)

○東宮薩南御著 東宮御召櫻香取は供奉諸姫と共に二十五日午後五時薩南の錦江灣に入港の旨二十六日鹿兒島電

○研究所の科學相談所 總督府研究所に於て四月一日より科學相談所を設置すべしと報せらる

四月

○二日(金) 帝國の西比利亞撤兵聲明 三月三十一日我政府は帝國の西比利亞撤兵に關する聲明を公布す(同日東京電)

○三日(土) 臺北橋開通式 大稻埕大橋頭に於ける新築臺北橋落成に付本日午前十時開通式を行ふ

○六日(火) 國際辯護士協會 増島六一郎氏を會長に舉げ尙ほ次年度は北京に開會することを決議せり(四日東京電)

○下村長官の臺灣留學生招待 下村長官は四日午前九時より在東京臺灣留學生五百餘名を小石川植物園に招待したり

○八日(木)

○東宮御歸京九州御見學の東宮殿下には七日歸京の途

に就かせらる(門司電)

□本島人巡査 秘めて本島人巡査を募集し應募者六百六名中より試験の上三十一名を採用して十二日より警官練習所に收容するに決す

▲十日(土)

□関門地下道竣工 下關驛より門司に連絡すべき地下道は竣功し八日通坑式を舉行せる旨九日東京電

□猛烈なる市街戦 ハバロフスクなる第十四師團の主力は五日朝露軍の抵抗より猛烈なる市街戦となり我戦死八十八、負傷百八十八、露軍死者四百を出すと八日東京電

□臺灣遊興規則(本年府令十七號) 本日より施行せらる

▲十一日(日)

□總督府實行豫算 九年度臺灣總督府實行豫算は九日決定し繰入總計七千七百十八萬圓、三千七百九萬圓繰出總計六千六百四十二萬二千六百五圓、差引一千七十七萬圓の繰入超過は追加豫算の財源に充當さるべしと九日東京電

□捕鯨好況 東洋捕鯨會社の大板塔を根據地として開始せる捕鯨漁業は二月二十八日以降四月九日迄の漁獲高二十七頭の多きに達し本月終獲迄に四十頭を獲べき見込なりと

▲十二日(月)

□總督府文官制服改正 訓令四十四號を以て文官服を改正し發布の日より之を施行すること、セリ(府令二十一號を以て舊制服は九月三十日迄用ふることを得せり)

▲十六日(金)

□立會中止 株式大暴落の爲め東株取引所立會中止となり大阪も休會せる旨十四日東京電

□警察航空班の飛行 昨十五日より臺北練兵場に於て警察航空班の飛行を行ふ

□臺灣館好人氣 福岡なる工業博覽會に於ける臺灣館は連日好人氣にして十一日の入場二千二百二十餘人、開始當日の賣上三千三百圓に達したりと

□馬來語講習會 南洋協會支部第四回馬來語講習會を開催し本日開會式を舉ぐ

▲二十一日(水)

□内地財界混亂 財界の變動により池田會社の倒産相續き各機業地に取引停止又は閉店するもの多く財界未嘗有の混亂を來たせりとの報續々到来る

□紙寒天の製造 臺灣水産會社基隆本店に於て紙寒天の製造を試むとの報あり

▲二十二日(木)

□財界應急策 我財界の混亂を救済せん爲め全國八大商業會議所聯合會を東京商業會議所に開き救済策三項を決議す(二十日東京電)

□落人争闘 桃岡閣下マリコラン落人新竹閣下ナロ社落人等二百餘人ハタオ社を襲撃す

▲二十三日(金)

□電報料金直上 邊信省は電報料の直上を爲し六月十七日より之を實施するに決せり政府は之に依りて約五百圓の増收を得べき豫定なりと(二十二日東京電)

□癩病全治の新藥發見 皮膚病學の大家ミラング博士

は方首アサリと稱する海草の液汁より癩病全治の新藥を發見せる旨羅馬のエレテムが誌は報す

▲二十五日(日)

□臺灣漁業好況 本島臺灣漁業本年好況を極め明治四十二年本島に新業開始せられて以來の新記録を作れりと

▲二十七日(火)

□東京市電罷業者 東京市電業従業員同盟罷業を爲し煽動者檢束さる

▲二十八日(水)

□宿舍料支給規程改正 臺灣文官に支給すべき宿舍不足の場合に支給する宿舍料を改正す

□李王家御慶事 李王世子殿下方子女王殿下の御婚儀本日鳥居敷邸に於て舉行せらる

▲二十九日(木)

□山東問題交渉開始 小幡公使は二十七日山東問題に關する一切の書類を獨逸より受領せる旨を通告して日支直接交渉を開始せりと

□伊國飛行機來 マシエロ中尉マレット技師同乗の飛行機二十八日黃昏福州に著すとの報あり

▲三十日(金)

□密直食料規程改正 訓令五五號を以て總督府密直食料規程を改正す

□各廳定員改正 全島各廳の屬、技手、稅務吏の定員を改正す

□招魂祭施行 濁水溪以北に於ける戰病死者山根陸軍少將以下七千四百七十七名の英靈を弔する爲め臺北新公園に招魂祭を行ふ



五月

▲一日(土)

□薩北廳の社會事業講演 薩北廳にては本日職員を集り社會事業報告講演會を開く

▲三日(月)

□全島共學生 四月末調本島人の共學者は五十一名、内四十一名は小學校、十名は直轄諸學校なり

□製糖會社配當 當期配當、帝國製糖は十割、明治製糖は十割八分、新高製糖は二十割(内十六割八分は創業十年記念)北海道製糖は八分、臺灣製糖は八割八分(内五割は創立二十年記念)との報あり

▲八日(土)

□京阪破産續出 財界大動搖の爲り大阪、京都市内は破産者續出し事業界大恐慌を來す(七日東電)

▲十五日(土)

□各政黨當選議員 十三日迄開票の結果、政友會二百七十三名、憲政會百八名、國民黨二十九名、中立四十四名と報せらる(十三日東電)

▲十六日(日)

□臨時議會召集 六月二十九日帝國議會を東京に召集し二十八日を開期とすの詔勅發布(十五日東電)  
□司法大臣以下親任式 司法大臣に大木蓮吉氏、鐵道大臣に元田肇氏、國務院總裁に小川平吉氏、以下次官部長、局長等親任式を行はる

□總督府警察飛行(察中) 警察飛行班は薩北露中間の大飛行を企て依田教官(遠藤警部同乘)は十五日午後四時七分離陸、中島式機にて露中に到り別府警部は

十六日午前六時五十二分モ式機にて離陸二機何れも無事露中に着す

▲十九日(水)

□伊飛行機北京著 羅馬東京間大飛行の伊國飛行將校フェリオン中尉は十七日青島發、北京飛行場に到着せり、マシエロ中尉の一機は十七日北京に向ふべく上海を出發したるも機體に故障ありて途中より引返せり(十七日東京電)

□銀相場激落 十七日臺灣銀行入電、倫敦銀塊相場は五十八片丁度に下れり

5/20 ~ 6/20 (原本になし)

六月

▲二十一日(月)

□臺灣俱樂部晚宴會 臺灣俱樂部にては六月十九日午後六時より東京築地精餐軒に於て晚宴會を催し今回同俱樂部員にして物選又は當選せる貴衆兩院議員を招待したり出席者は正賓として小山勳選、清水、鈴木、阪本、古賀の四代議員並に後藤會長、安場副會長、大倉男を初め會員約四十名及臺灣總督府より川崎局長、阿部課長列席し後藤會長の挨拶、小山氏の答辭其他代議士の上話あり盛會裡に散會したる旨二十日東京電

▲二十四日(木)

□臺灣を度列刺流行地 福岡縣港務部にては南臺灣比律賓諸島を度列刺流行地として又香港をベスト流行地と指定したり二十三日東京電

▲二十七日(日)

□福州大洪水 二十日以來降雨致す數十年來の大洪水となり各商店工場とも悉く休業し各戸炊爨出來ず水上の生活頗る悲惨を極む(二十六日福州發)

□臺灣自治制閣議に上る 臺灣自治制及之に關する法令は二十六日の閣議を通過せる旨二十六日東京電

□全島競技大會 二葉會主催の本島第一回競技大會は二十七日午前七時、下村長官の臨場と共に全島新界健兒百數十名の入場式ありて勇壯なるオリズムピクテックゲームは盛んに行はれ南國競技界に空前の記録を作れり

七月

▲八日(木)

□兇蕃の隘勇線襲撃 察中廳下なる南勢蕃社の白嶺、稍來の兩監督所其他の駐在所、見張所に對し六日午後三時半多數蕃人の來襲あり巡警隘勇數名の死傷を出し慘害を極めたり蕃人は北勢蕃及南勢蕃の一部なるべく、急報に接して東勢角及整中より直ちに應援隊を急派せり

▲十日(土)

□廣東記者團の視察 廣東新聞記者團一行は本島視察の爲め九日著發し同日午後六時長官官邸に於て高田長官代理一行を招待して晚宴會を催したるを初め各所に於て歓迎を受けたるが同團は豫定の視察を遂げたる上十八日開城丸にて歸國の途に就きたり

▲十六日(金)

□全島米價 總督府調査七月五日現在、全島平均相場は玄米卸賣一石二十三圓五十錢一風、白米小賣三十錢